
東京都微生物検査情報

MONTHLY MICROBIOLOGICAL TESTS REPORT, TOKYO

第 37 卷 第 6 号
2016 年 6 月号
月 報

 東京都健康安全研究センター

<http://idsc.tokyo-eiken.go.jp/>

ISSN 1883-2636

東京都における胃腸炎起因ウイルスの検出状況

(2015年9月から2016年3月まで)

1. はじめに

2014/2015シーズン(2014年9月～2015年8月)における東京都内での胃腸炎起因ウイルスの検出状況については、本誌第36巻第11号(2015)にて報告した。今回は、それ以降の2015年9月から2016年3月における都内で発生した食中毒(有症苦情を含む)や保育園等の小児施設内における集団胃腸炎事例からの胃腸炎起因ウイルスの検出状況について報告する。

2. 2015/16シーズンの概要

当該期間中に検査依頼があったウイルス性食中毒関連事例は286件で、検体数は糞便2,215件(発症者1,233、非発症者55、従事者927)、食品408件、拭き取り436件であった。これは例年と比較しやや少ない依頼数であった(昨年同時期の糞便検体依頼数は3,692件)。

このうち、169事例(59.1%)、747検体(60.6%)の胃腸炎発症者から胃腸炎起因ウイルスが検出された。検出されたウイルスの内訳はノロウイルス(Norovirus: NoV)が最も多く162事例(95.9%)を占めた。その他サポウイルス(Sapovirus: SaV)が2事例、ロタウイルス(Rotavirus: RV)が2事例、アストロウイルス(Astrovirus: AstV)が2事例、NoVとRVの同時検出が1事例あった(表)。

食中毒疑い事例のうち27例でカキあるいはアサリ等の二枚貝の喫食歴があり、依然カキが原因となるNoV陽性事例が多い傾向にある。二枚貝を原因とする食中毒防止のためには、十分な加熱(85～90℃で少なくとも90秒間)とともに、調理前の二枚貝からの他の食品等への汚染防止等の取扱いについても注意が必要である。

また、従事者の検便を実施したものは66事例あったがその半数の33事例において調理従事者等がNoV陽性となり、従事者による二次汚染の可能性が考えられた。33事例中19事例(57.6%)では複数の従事者が陽性となり、中には、従事者14名中8名(57.2%)がNoV陽性の福祉施設や7名のうち5名(71.4%)が陽性であった飲食店もあった。NoVは感染力が強く、同一職場内の従事者間で感染が広がるものと推察され、従事者の意識向上や健康管理の重

要性を根強く啓発していく必要がある。

3. 2015/16シーズンに検出された遺伝子型

検出されたNoVを遺伝子群別にみると、GⅡが145事例(89.5%)と最も多く、GⅠが11事例(6.8%)、GⅠとGⅡがともに検出された事例が6事例(3.7%)であった。162事例のうち158事例についてさらに詳細な遺伝子解析を実施したところ、GⅡ.17が71事例(44.9%)と最多であり、次いでGⅡ.4が43事例(27.2%)、GⅡ.3が19事例(12.0%)であった(図)。昨年、新たなNoVの遺伝子型GⅡ.P17-GⅡ.17が報告されたが¹⁾、東京都で昨年9月以降検出されたGⅡ.17のうち、ポリメラーゼ領域の解析を行ったものは全てGⅡ.P17-GⅡ.17であった。9月から12月のGⅡ.17の検出は月間0～5事例ほどの検出数にとどまっていたが、年が明けた1月には14事例、2月には24事例、3月には25事例と増加した。2014/15シーズンにおいてはGⅡ.17は1月以降に増加していたが、この傾向が2シーズン続いて見られた。

一方、小児施設における集団発生または食中毒疑い事例に関連しての検査依頼は43事例あり、そのうちNoVが検出された事例は32事例(74.4%)であった。検出された遺伝子型の内訳は、GⅡ.3が14事例(43.8%)と約半数を占め、次いでGⅡ.4が8事例(25.0%)であった。これに対し、GⅡ.17が検出された事例は3例(9.4%)に過ぎず、小児施設において検出された遺伝子型は全体の結果とは異なる傾向を示した。このような傾向は過去にも見られており²⁾、集団の構成等疫学情報と検出された遺伝子型の関連についてはさらに調べていく必要がある。

4. おわりに

全国では1,348件のNoV遺伝子型の報告*がある。最多遺伝子型はGⅡ.4で47.8%(644/1,348)を占めており、次いでGⅡ.17が20.0%(270/1,348)、GⅡ.3が17.9%(241/1,348)であった。東京都においては上位の遺伝子型の種類は同じだが(GⅡ.17、GⅡ.4、GⅡ.3)、GⅡ.17が最多遺伝子型であり流行状況の傾向は全国とは異なるものであったが、その理由は現在のところ明らかではない。都内でも食中毒関連と小児施設とでは分布が異なる事から、今後、他道府県

における検出状況についても検討し、比較や発生要因等の分析により要因を明らかにしたい。

注) * 病原微生物検出情報 月別ウイルス検出状況(2016年6月24日現在)による

1) Matsushima, Y., *et al.* Genetic analyses of GII.17 norovirus strains in diarrheal disease outbreaks from December 2014 to March 2015 in Japan reveal a novel polymerase sequence and amino acid substitutions in the capsid region. *Euro*

Surveill. 2015;20 (26) :21173. DOI: 10.2807/1560-7917.ES2015.20.26.21173 PMID: 26159307

2) 東京都内の小児施設におけるノロウイルス検出状況(2013/14), p6, 平成 26 年度地研協議会第 29 回関東甲信静支部ウイルス研究部会講演抄録集(2014)

(ウイルス研究科 宗村佳子)

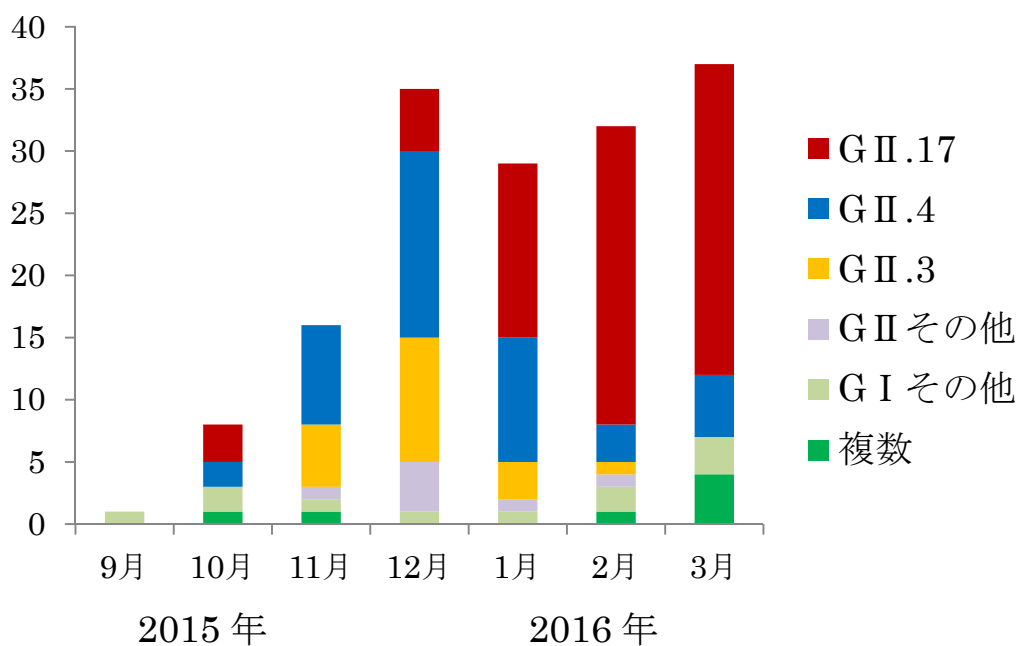


図. 東京都で検出されたノロウイルスの遺伝子型 (2015年9月~2016年3月、n=158)

表1 病原体搬入・検出状況(4種等)*

2016年6月分

機関名		コレラ菌	赤痢菌	チフス菌	パラチフスA菌	腸管出血性大腸菌	結核菌
区	千代田区					1	
	中央区					1	
	港区					2	
	新宿区			1			
	文京区					2	
	台東区						
	墨田区						
	江東区					2	
	品川区					2	
	目黒区					1	
	大田区					2	
	世田谷区					1	1
	渋谷区						
	中野区					2	
	杉並区		3				
	豊島区					1	
	北区						1
	荒川区					1	
	板橋区						
	練馬区					3	1
足立区							
葛飾区					1	1	
江戸川区						2	
市	町田市					1	2
	八王子市					2	
小 計			3	1		25	8
都	西多摩						
	多摩立川					1	
	南多摩					4	
	多摩府中					4	
	多摩小平					10	
	島しょ						
小 計						19	
合 計			3	1		44	8
健康安全研究センター 検出分				2		16	

*2016年4月より、各保健所から搬入された検体を集計することとした。

表2 検体搬入状況(全数把握対象疾患-五類)*

2016年6月分

	検体数	2016年累計
侵襲性インフルエンザ菌感染症(菌)	3	20
侵襲性髄膜炎菌感染症(菌)		1
侵襲性肺炎球菌感染症(菌)	18	73
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症(菌)	11	46
播種性クリプトコックス症(菌)		9
合 計	32	149

※2016年4月(第37巻・第4号)から追加

表3 病原微生物検出状況(食中毒関連)

2016年6月分

	病原体名	検体数	2016年累計
細菌	大腸菌		
	毒素原性		
	組織侵入性		
	病原血清型		
	腸管出血性	18	19
	その他・不明		
	サルモネラ		
	O4		7
	O7		3
	O8		1
	O9	1	1
	その他		
	不明		
	腸炎ビブリオ	1	1
	その他のビブリオ	1	1
	カンピロバクター	23	126
黄色ブドウ球菌			
A型ウエルシュ菌	11	68	
ボツリヌス菌			
セレウス菌			
ウイルス	ノロウイルス(G I)	6	48
	ノロウイルス(G II)	45	629
	ノロウイルス(G I,G II)	2	15
	ロタウイルス		
	サポウイルス		1
寄生虫	アニサキス	2	9
	クドア		
合 計		107	926

表4 HIV 検査数及び陽性数

2016年6月分

	男性		女性		性別不明		合計	
	検査数	陽性数	検査数	陽性数	検査数	陽性数	検査数	陽性数
東京都南新宿検査・相談室	745	6	301	0	0	0	1,046	6
保健所等	160	0	71	0	0	0	231	0
合計	905	6	372	0	0	0	1,277	6
2016年累計	4,492	55	1,772	0	1	0	6,265	55

表5 性感染症検査数及び陽性数

2016年6月分

	梅毒検査		クラミジア遺伝子検査		淋菌遺伝子検査	
	検査数	陽性	検査数	陽性	検査数	陽性
東京都南新宿検査・相談室	1,010	60	708	34	708	3
保健所等	171	3	175	7	94	1
合計	1,181	63	883	41	802	4
2016年累計	3,721	205	1,643	91	1,262	5

表6 定点把握疾患別病原体分離状況（ウイルス）

2016年分

定点種別	対象疾患名	検出病原体	4月	5月	6月	合計
小児科	咽頭結膜熱	アデノウイルス		3	5	8
	流行性耳下腺炎	ムンプスウイルス	5	4	7	16
インフルエンザ	インフルエンザ及びインフルエンザ様疾患 (ILI)	インフルエンザウイルスAH1pdm09	9	2		11
		インフルエンザウイルスAH3		1	1	2
		インフルエンザウイルスB型Victoria系統	14	1		15
		インフルエンザウイルスB型Yamagata系統	29	7	1	37
眼科	流行性角結膜炎	アデノウイルス		1		1

◆東京都微生物検査情報◆

2016年 7月 29日

編集・発行

東京都健康安全研究センター

〒169-0073

東京都新宿区百人町 3-24-1

TEL:03-3363-3213

FAX:03-5332-7365

S0000786@section.metro.tokyo.jp

<http://idsc.tokyo-eiken.go.jp/>